

東北大学薬学同窓会員の皆様へ

細胞情報薬学分野の復旧状況についてのご報告

平成23年3月11日に東北・関東地方を襲った東日本関東大震災は、巨大な津波を伴い、東北地方太平洋沿岸を中心に目を覆うような被害を及ぼしております。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の方々には心よりお見舞い申し上げます。

また、多くの東北大学薬学同窓会員の皆様から、薬学研究科ならびに細胞情報薬学分野に対しまして、お見舞いのご連絡を頂戴いたしまして心より感謝申し上げます。さらに、同窓会への震災復興支援事業を通じた暖かいご支援を賜りましたこと、重ねてお礼申し上げます。

さて、6月に入り、震災から3ヶ月を迎えましたが、これを機に細胞情報薬学分野の復旧状況および現状を同窓会員の皆様にご報告申し上げます。

皆様もご存知のように、3月11日(金)14:46に仙台は震度6弱～6強の巨大地震に見舞われ、東北大学薬学研究科も激しい揺れに襲われました。細胞情報薬学分野では、就職活動や春休みなどで不在にしていた数名を除く16名が研究室にいましたが、何とか全員怪我なく無事でした。その後、研究室に不在だった9名とも連絡がとれ、全員が無事であることが確認できました。

翌日からは原則的に教職員のみが立ち入りが許されたことや、新学期の開始が4月下旬になることが決定されたことを受けて、研究室の学生には帰省を促し、自宅が仙台の場合には自宅待機を指示しました。最終的に仙台近郊に実家のある4名以外は3月中に県外の実家や友人宅に避難しました。当然のことながら、卒業式、学位記授与式、歓送会は全て中止になり、研究室で行う予定だった歓送会の二次会も取りやめになり、平成22年度末に研究室を離れる教員・学生にとっては残念な卒業の仕方になってしまいました。

さて、研究室内の物的被害状況ですが、多くの実験機器やオフィス用品が倒壊したり、ガラス器具の破片が床に散らかっていて、一見、復旧は無理だろうと感じましたが、小原助教や西野分野研究員の協力もあり、その日ごとに片付け目標を決めながら、地道に片付けを始めました。共焦点顕微鏡システムや発光イメージング装置に故障が生じたものの、2週間ほどで研究室のおおよそ片付けは終了しました。震災直後は停電のため、薄暗い不便な環境の中での復旧作業でしたが、3月14日(月)には電気も復旧し、また、3月16～17日には水道も復活し、その有難味をひしひしと感じるとともに、完全復旧に大きな力を与えてくれました。

震災から34日後の4月14日(木)にゼミ室に研究室メンバーのほぼ全員が集合し、黙祷をささげた後に研究室活動を再開しました。現在は、ガスも復旧し、ほぼ通常通りの教育・研究を行っております。

今日のこの日を迎えることができたのも、東北大学薬学同窓会員の皆様からいただいた暖かい励ましのお言葉やご支援のお陰だと思っております。これを励みに今後も教育・研究に一層の努力をしてみたいと思います。ありがとうございました。

平成23年6月13日(月)

准教授・守屋 孝洋

震災後の研究室の様子



